

Field work
01

【表現者】 金箱淳一(メディアアーティスト／神戸芸術工科大学助教)、原田智弘(音空間デザイナー／ソラソレ堂)

【作品制作協力者】 西岡克浩(美術と手話プロジェクト代表／特性：聴覚)

Q. 西岡克浩さんとのフィールドワークの中で、一番の気づき(発見)は何でしたか？



金箱

音の発する場を「音の鳴る場をよく見て、聞き入って」います。聴覚で音を捉えるのではなく、五感で音を捉える。多感覚で「利く」事によって、健聴者も音に対する新たな視点を生み出すことができる点です。



原田

音は見えないが、それでもやはり存在します。例えば西岡さんが音楽が好きであるように、心で感じる音があるということ。音を感じる方法がたくさんあるかもしれないということ。

Q. フィールドワーク実施後、どのようなやりとりをしましたか？



西岡さんとかなり頻繁にやり取りし、よく遊びました。例えば、音をテーマにした美術展に行ってみたり、ゲームセンターに行って音楽ゲームやレースゲームをしたり、もんじゃ焼きを食べに行ったり。そして、遊びの後には必ずその日の体験や作品アイデアについて語り合う時間を持ちました。この対話の延長が今回の展示であると考えています。

Q. 作品のテーマや、テーマにつながった具体的な出来事があれば教えてください。



「音を、利く(五感で捉える)」昨年8月に原田さんと二人で茅ヶ崎のフィールドワークを行った際、茅ヶ崎の埠や垣根に棒で触れながら歩いてみました。棒でなぞることによって音と感触を楽しむ中で、聴覚と触覚の間の曖昧な情報を記録し再現することによって、感覚同士の調整(調感)の先にある作品体験が作れないかと考えたのです。二人の視点を融合し、鳴り物の風鈴をモチーフにして聴覚、視覚、触覚で感じることのできる作品を制作しました。



「風は、吹く。」茅ヶ崎は海辺にも美術館の周りにも風が吹き渡ることが印象的な土地です。2月のフィールドワークで西岡さんがいい匂いと言った梅の花の香りは僕の鼻もくすぐりました。昨年8月の金箱さんと二人のフィールドワークでは、暑さの中に感じる潮風の香りや燃える夏の匂いを感じつつ、休憩時には二人の間に風が通り一服の涼となりました。思えば風は何処にでも吹き、分け隔てなく人々を包み、音や匂いや温度などたくさんの情報を伝えてくれます。人は団扇を扇いで相手を労わります。語り合うとき、食卓を囲むとき、一休みするとき、人と人はいつも風を感じ、つながっている。そんなことに気がつきました。例えば風鈴が風を教えてくれる秀逸な道具であるように、風を愛する作品を作りたいと思いました。

【表現者】 原 良介(画家)

【作品制作協力者】 原 そよ(2才の子／特性：子ども)、原 美帆(母親／特性：ベビーカーユーザー)

Q. 原そよちゃんとのフィールドワークの中で、一番の気づき(発見)は何でしたか？



階段、坂道などの縦軸の空間に無条件に反応するということを、日頃当たり前に共に過ごす娘を客観的に観ることで感じました。その意味で、フィールドワーク後の感情マップ制作で参加者の皆さんと共有できた価値が「自由な環境での負荷が好き」というのも非常に納得でした。

Q. フィールドワーク実施後、どのようなやりとりをしましたか？



自分の娘なので(笑)、毎日一緒にいるので、よく崖を登らせてます。作品づくりの参考のためフィールドワークと同じ工程を約半年ぶりにもう一度たどりましたが、概ね同じ反応でした。

Q. 作品のテーマや、テーマにつながった具体的な出来事があれば教えてください。



カメラマンの香川さんの撮影されたフィールドワーク模様の写真データを後ほど頂いて眺めている折、当日の娘は鳥の柄の入った服を着ていたことにふと関心がいきました。上の気づきと相まって、鳥の服を着て鳥のような動きをする娘、テーマは鳥にしようと決まりました。

【表現者】 MATHRAX(久世祥三 + 坂本茉里子)(アーティスト、エンジニア、デザイナー)

香料開発：稻場香織(資生堂グローバルイノベーションセンター 香料開発グループ研究員)

【作品制作協力者】 小倉慶子(盲導犬ユーザー／特性：視覚)、リルハ(盲導犬)

Q. 小倉慶子さんとリルハちゃんとのフィールドワークの中で、一番の気づき(発見)は何でしたか？



今まで、日常において障害のある方と街中で出会うことはあってもなかなか接点が生まれず、どこか「生きる世界が分けられている」ような印象を常に持っていました。また、健常者とは一体どんな人のことを言うのか、という素朴な疑問もありました。フィールドワークでの一番の発見は「実は誰もが生きる感覚特性者であること」でした。そして「誰もが自分自身のことを知ることが一番難しい」ということです。作品のためのリサーチ、制作期間には自分にとってはあたりまえな知覚の仕方や行動が、人にとってはかなり斬新であり、新鮮な印象を与えていたりすることに気づく、ということがよくありました。このような体験から得たのは「実は、誰しも自分の中にもうひとりの自分がいて、その自分とどうにか折り合いをつけながら、今を生きているのではないか」という視点です。

このプロジェクトは、常に「インクルーシブな社会ってなんだろう?」というテーマと疑問とともにありました。実は、こうしてたくさんの感覚特性を持つ全ての人と、その体験や思いについて肩の力を抜きながら話すこと、身に感じること、時間をともにしている時こそが、その答えをそのまま示しているのではないかと、そんな気がしています。

Q. フィールドワーク実施後、どのようなやりとりをしましたか？



盲導犬ユーザーの小倉慶子さんと盲導犬のリルハちゃんに、子どもから高齢の方、障害のある方から車椅子の方まで、誰でもれるヨット（ハンザ）の体験にお誘いいただきました。電気もエンジンも使わず、風を使って大海原に繰り出してゆくスケールの大きさ。そして、小倉さんの乗るヨットのとても力強くて美しい動き。まるで風と自由に遊ぶように走る姿は壯觀でした。また、誰でも乗れるハンザのグループ「ピッコラくらぶ」には、すでにインクルーシブな社会を体現しているようなあたたかさと柔軟さがあり、小倉さんにこの世界を教えていただいたことを本当に嬉しく思っています。

Q. 作品のテーマや、テーマにつながった具体的な出来事があれば教えてください。



テーマは「誰かと歩く時に生まれるリズム感、そこに感じられる共時性はどのように作られていくのか、また人はどのように新しいイメージをつくりだすのか」です。具体的な出来事は、盲導犬ユーザーの小倉慶子さんと盲導犬のリルハちゃんとのフィールドワーク中に見た、ふたりの軽快な歩みです。見える人にとって、前の見えない道は本当に怖いものですが、そこに誰かとの信頼関係や、その世界の見方を変えるようなきっかけがあれば、どんな道も、軽やかに歩み進むことができるかもしれません。小倉さんは、リルハちゃんとその軽快な歩みの原動力は、リルハちゃんの推進力なのだと教えていただきました。きっとお互いに楽しい（周囲も楽しい）と思う気持ちが、この場と時間をつなげているのでしょうか。香りの開発者である稻場さんには、作品コンセプトと周囲の環境を結ぶように、光の明度を匂いで表現することに挑戦してもらいました。

Field work
04

【表現者】 アーサー・ファン（美術家／理化学研究所脳神経科学研究センター研究員）

【作品制作協力者】 和久井真系（エーラスダンロス症候群患者会／特性：車椅子ユーザー）

Q. 和久井真系さんとのフィールドワークの中で、一番の気づき（発見）は何でしたか？



茅ヶ崎市美術館からサザンビーチへ。そして、茅ヶ崎駅へ行き、美術館まで戻りました。和久井さんと色々と話しながらのフィールドワークでは、お互いの見る視線の高さの違いに気づきました。しばらく、車椅子の和久井さんの高さで歩いてみたところ、新しい世界に気づきました。それ以来、私は、地面から空を見上げ360度の景色を意識するようになりました。

Q. フィールドワーク実施後、どのようなやりとりをしましたか？



石川町のギャラリーで会ったりしました。私たちは茅ヶ崎で一緒に散歩をするために定期的に連絡を取り合っていましたが、スケジュールとタイミングのために、フィールドワーク以降、一緒に散歩をすることができませんでした。

Q. 作品のテーマや、テーマにつながった具体的な出来事があれば教えてください。



私の作品のテーマは、茅ヶ崎市美術館への散歩中に見たものに焦点をあてました。リサーチをするために2018年から16回ほど、茅ヶ崎を訪れました。訪問中、美術館に行く目的だけでは通常気づかないかもしれない、新しい光景を発見するために歩きました。今回のインスタレーションは、私のフィールドワークの本質と、美術館への道中、そして、今後どの道でもできる素晴らしい発見を表現したいと思っています。

みなさん に 美術館 を 楽しんで いただくため の お願 い

サポートが必要な方はスタッフにお知らせください

◎受付と各展示室には、筆談ボードをご用意しています

◎美術館前のスロープでの移動が難しい場合は、他の導線をご案内します



館内は走らないで

作品や人にぶつからないように



大きな声はださないで

ほかの人のがびっくりしないように



作品には触らないで

作品が壊れたり、傷ついたりしないように



触っていいと記載がある 作品にはやさしく触って

大切な作品が壊れないようにそっと



パネルの QR コードは 音声読み上げ機能に 対応しています



展示室2と3は、照明が 少し暗くなっています

作品に光が使われているため

For visitors who need any support or assistance,
please let any museum staff member know how best to assist you.

1. Please do not run inside the museum.
2. Please do not speak loudly inside the museum.
3. Please do not touch the artworks unless otherwise indicated.
4. For artworks that can be touched, please handle them with care.
5. The QR codes on the explanatory panels can activate a voice reading of the text.
6. Please be aware that Exhibition Rooms 2 and 3 are dimly lit.